

6 日英公文交換と封鎖の解除

1653

昭和15年5月11日

有田外務大臣より
在英重光大使宛（電報）

天津租界問題に関する日英交渉がほぼ合意に
達し治安・現銀処理・通貨三問題の覚書案作
成について

別電一 昭和十五年五月十一日発有田外務大臣より在

英国重光大使宛第三三九号

封鎖解除の際のわが方口上書案

二 昭和十五年五月十一日発有田外務大臣より在

英国重光大使宛第三四〇号

封鎖解除に当たりわが方が手交する覚書案

本省 5月11日発

第三三八號（極秘、至急）

天津英租界問題ニ關シテハ其ノ後四月十三日十九日五月四
日及十日次官「クレীগー」ト會談シタルガ其ノ結果左ノ
通

(一) 治安問題、現銀處理問題及通貨問題ニ關シテハ極メテ微
細ノ點ヲ除キ意見一致シ夫々ノ問題ニ關シ「メモランダ
ム」ヲ作成ス（尙別ニ議事録アリ）

(二) 右「メモランダム」三通ニ次官「クレীগー」ガ「イニ
シャル」ノ後約一週間ヲ經テ（軍側ノ隔絶解除準備ノ爲）、
之ヲ添附シタル公文ヲ本大臣「クレীগー」間ニ交換ス
(三) 英租界隔絶措置ノ解除ニ付我方トシテハ右公文交換ノ際
本大臣ヨリ別電第三四〇號ノ「エードメモアル」ヲ手
交シタル上別電第三三九號ノ諸點ヲ口頭説明（爲念之ヲ
書キ物トシテ手交）スルコトトシ度キ案ナルニ對シ「ク
レীগー」ハ別電ノ二案ヲ一括シ一ツノ文書トシ且之ヲ
交換公文ニ添附スルコトヲ主張スルノミナラス英租界ヲ
繞ル障壁ヲ全部撤去スル期限ヲ明示センコトヲ頑強ニ主
張シ居リタルカ五月十日ノ會談ニ於テ極力説得ノ結果
「クレীগー」漸ク我方案ニ同意シ、只別電第三三九號
ノCノ末段ノ軍需品確保ノ爲ノ制限ノ點ヲ議事録ニ入ル

ルコトトシ本省ニ請訓スヘキコトトナレリ

尙隔絶措置ノ解除ニ付我軍側ニ於テハ右ハ統帥事項ナリト
ノ純理論ヲ突張り居ル他障壁撤去期日ノ明示ハ内部ノ關係
ニ於テ複雑困難ナル事情アリタル譯ナルカ現在ハ「クレ
ギー」ノ心配スルヨリハ存外早ク(大體一ヶ月以内、但シ
此ノ點極秘)全部撤去スル肚ヲ決メ居ル次第ナリ

就テハ右事情御了承ノ上適當ノ機會アラハ夫レト無ク英國
側ニ對シ可然側面工作ヲ行ハレ度(「クレギー」ハ貴大使
ヨリ本件ニ付直接英國外務省ニ交渉セラルルコトハ困ルト
言ヒ居タルニ付此ノ邊ノ事情ハ御斟酌アリ度)

尙別電ノ措辭ニ關シ左ノ點御含置相成度

(イ)別電第三四〇號ノ第二項中 continue to do ヲ挿入シタル
ハ客年七月ノ有田「クレギー」原則協定ニ英國側ノ主
張ヲ容レ to confirm their policy ナル言ヒ廻シヲ認メタ
ルニ對應スルモノナリ

(ロ)別電第三三九號ノCノ末段ハ軍力英租界隔絶措置トハ獨
立ニ實施シ居ル物資ノ移動ニ對スル制限ニシテ其ノ對象
ハ各種皮革及棉花棉糸各種纖維製品等ナリ

別電ト共ニ佛ニ轉電アリ度

北京、天津、南京、上海、香港ニ轉電セリ

(別電一)

本省 5月11日後0時發

第三三九號(至急)

(a) All barriers round the British Municipal Area shall be removed as quickly as possible. This shall apply both to the general barriers erected round the Area and the special barriers maintained on the traffic roads leading into and out of the Area.

(b) All restrictions on the movement of persons into and out of the British Municipal Area shall be removed as from to-day except as explicitly provided in the memorandum on police matters.

(c) All restrictions on the movement of goods into and out of the British Municipal Area shall be removed as from to-day; this shall apply to the movement of goods both by land and by water, and, in respect of the latter, no restriction shall be placed on river traffic beyond the

inspection at the wharf provided in the memorandum on police matters; this does not, however, apply to the restrictions imposed by the Japanese Military authorities for the purpose of securing their supplies.

(別電11)

本省 5月11日発

第三四〇號(至急)

1. Mr. Arita informed Sir Robert Craigie on the 11th of May, 1940, that the Japanese Military authorities in North China have expressed their intention of removing all restrictions imposed on the movements of persons and their merchandise and supplies into and out of the British Municipal Area in Tientsin.

2. The Japanese authorities in North China will continue to do everything in their power to suppress any anti-British action or agitation in the regions under their control.

1654

昭和15年5月12日 在天津武藤総領事より
有田外務大臣宛(電報)

天津租界の封鎖解除後における軍需物資の移動制限措置には妙案なく実施困難な旨報告

天津 5月12日後発
本省 5月12日夜着

第二六七號(極秘)

租界隔絶解除後軍需調辦品ノ移動制限ヲ如何ナル方法ニテ實施スルヤハ目下軍ニ於テ研究中ニシテ未タ成案ヲ得ルニ至リ居ラス隔絶解除後現在ノ檢問所附近ニ於テ貨物ノ檢索ヲ續行スルトキハ日英協定ニ違反スル如ク誤解セラレ紛糾ヲ招ク惧アリ一方天津市ノ周圍ニ於テ檢索ヲ行フコトハ兵力其他ノ關係上不可能ナル事情モアリ本件ハ相當難カシキ問題ト認メラル尙軍需品調辦ハ清水部隊ノ管轄ナルヲ以テ結局最後ノ決定ハ北京方面軍ニ於テ之ヲ行フコトナルヘク從テ本問題ニ付テハ北京大使館ニ於テモ考慮アラハ好都合ナリ

北京へ轉電セリ

1655

昭和15年5月18日

有田外務大臣より
在天津武藤総領事宛(電報)

天津租界問題に関する対仏交渉では中国の事

態に関する一般原則の容認を優先すべきとの

陸軍要望について

本省 5月18日後8時発

第一七四號(至急、極秘)

往電第一七〇號ニ關シ

對佛交渉方針ニ付テハ十八日陸軍側ヨリ先ツ原則協定ノ成立ニ努力セラレ度右カ成立セサル限リ治安、現銀、通貨等ノ協定ニ付テハ話合ニ入ラサル様セラレ度旨態度ヲ變更シ來レリ

(同)

當方ニ於テモ因ヨリ交渉ノ手順トシテハ先ツ原則協定ヲ持出スベキモ佛側カ往電第一五二號ノ態度ヲ固執スレハ成ルヘク英佛同時ニ協定ヲ成立セシメントスルコトハ實現困難トナルヘク依テ斯カル場合ニハ原則協定ノ話合ハ續ケツツモ不取敢治安等ノ協定ヲ成立セシムル方針ナリシ次第ナル處歐洲情勢モアリ佛國カ態度ヲ變へ來ルコトモアリ得ヘキニ付一應原則協定ノミニ付話ヲ切出スコトトセリ貴官御含

迄

北京(大)ニ轉電セリ

~~~~~

1656

昭和15年6月4日

有田外務大臣より  
在北京藤井大使館參事官、在天津武藤  
総領事宛(電報)

天津租界問題に関する日英交渉妥結について

本省 6月4日後9時10分発

合第一一八五號(極秘、館長符號扱)

天津英租界問題ニ關シテハ其ノ後次官「クレイギー」ノ間ニ五月二十五日、二十八日及六月一日ノ三回會談シタルカ二十五日ニハ「クレイギー」依然強硬ナル態度ヲ持シ居リタルモ二十八日ニ至リ多大ノ讓歩ヲ爲シ實質的ニ意見ノ一致ヲ見タリ詳細ハ三日空送シタル書類ニ依リ御承知アリ度細目ノ點(主トシテ議事録ニ記載スヘキ字句)ニ付若干英國側ノ言分ヲ通シ遣リタル點ハアルモ實質的ナル點(例ヘハ制限撤去排英取締ノ點ハ我方ヨリ一方の二通告スルコト、又共同發表ノ内容ヲ限定シ英國側カ發表シ度ト主張シ居タル點ヲ切落スコト)ニ付テハ我主張ニ聽從セシメタル次第

ニモアリ此ノ邊ニテ妥決ヲ計ルヘキモノト認ム  
就テハ貴地軍側ニ於テ區々タル異議アル場合ニハ可然之ヲ  
抑フル様配慮アリ度

本電宛先 北京 天津

1657

昭和15年6月4日 有田外務大臣より  
在仏国沢田大使宛(電報)

天津租界問題に関する日英交渉の妥結に伴い  
仏国側へも同様の協定締結方提議について

本省 6月4日発

第二九六號

往電第二三〇號ニ關シ

四日次官佛國大使「アンリ」ト會談ノ際天津佛國租界問題  
ニ言及シ英國側トノ間ニハ殆ト意見ノ一致ヲ見タルニ付テ  
ハ右ニ倣ヒ日佛間ニモ取極ヲ行フコトト致シ度トテ客年七  
月ノ日英原則協定(客年往電合第一六九七號)ノ寫及治安、  
現銀及通貨ニ關スル日英間取極ノ案文ヲ手交シ左ノ通申入  
レタリ

イ、原則協定ニ付テハ佛國ハ極東ニ於テ英國ト同一ノ政策

ヲ執リ居ラルルニ依リ斯ノ如キ協定ヲ行フニ御異存ナシ  
ト思考スルコト

ロ、治安問題ニ付テハ日英間ノ取極ヲ其ノ儘佛租界ニ移シ  
用フルコトハ實情ニ反シ且現地日佛當局間ニハ圓滑ナル  
連絡提携モ行ハレ居ル次第ニ付本件ニ關シテハ先ツ現地  
日佛總領事ノ間ニ日英間ノ取極ヲ基礎トシ佛租界ノ實情  
ニ適シタル取極案ヲ作成シ之ヲ東京ニ於テ確認スルコト  
ト致シ度コト

ハ、現銀問題ニ付テハ分離セラルヘキ銀ヲ英貨二十萬磅ト  
スル他日英間取極ト同一内容トスルコト

ニ、通貨問題ニ付テハ日英間取極ノ内容ヲ其ノ儘用ヒ度コ  
ト

右ニ對シ「アンリ」ハ追テ何分ノ儀回示スヘキ旨述ヘタル  
カ佛國側トシテ本件ヲ應諾スルニ左シテ困難ナカルヘキヤ  
ノ口吻ナリキ

英ニ轉電アリ度

米、北京、天津、上海、南京(大)、香港ニ轉電セリ

1658

昭和15年 6月12日

有田外務大臣より  
在英國重光大使、在北京藤井大使館参  
事官、在天津武藤総領事宛(電報)

天津英租界に関する治安・現銀処理・通貨三  
問題の覚書ならびに議事録に対し日英間で署  
名について

付記 昭和十五年六月十二日署名

天津英租界の治安問題に関する日英覚書

本省 6月12日後6時10分発

合第一二四四號(至急)

天津英國租界問題ニ付テハ殘余ノ諸點ニ付テモ意見合致シ  
タルヲ以テ本十二日午後治安、現銀及通貨ノ各覺書竝ニ議  
事録ニ谷次官及「クレイギー」ノ「イニシャル」ヲ行フコ  
トトナレリ

尙右ハ追テ大臣「クレイギー」間ニ確認(公文交換)スル手  
筈ナル處我方トシテハ其ノ間佛國側トノ間ニモ協定ノ成立  
ヲ見ル様努力シ度キ意向ナリ

本電宛先北京、天津、英

英ヨリ佛ヘ轉電アリ度

米、滿、南京(大)、上海、香港へ轉電セリ

(付記)

(昭和十五、六、十二)

覺書第一(假譯)

天津英國租界内ニ於ケル安寧秩序ノ維持

天津ニ於ケル日英兩官憲ハ一切ノ「テロ」活動及安寧秩序  
ヲ紊亂スルノ虞アル一切ノ行爲又ハ自己ノ安全ヲ確保シ且  
其ノ支配スル地域ニ於ケル治安ヲ維持スル爲特殊ノ要求ヲ  
有スルコトヲ認メラレ居ル日本軍ノ安全ヲ害スルカ如キ一  
切ノ行爲ヲ英國租界内ニ於テ防遏スル爲一層有效ナル協力  
措置ヲ執ルコト望マシト思考ス  
右目的達成ノ爲英國租界ニ關スル詳細左記ノ如キ一定措置  
取極メラレタリ

日本憲兵隊ニヨル協力ハ英國租界内ニ於ケル同租界工部局  
警察ニ對スル援助ニ關スル限り單ニ一時的性質ヲ有スルモ  
ノニシテ右ハ事態ノ改善ニ伴ヒ漸次廢止セラルベキモノト  
ス

本覺ノ如何ナル點モ治外法權ノ特權ヲ享有スル國民ノ有ス

ル確實ナル權利ニ影響ヲ及ボスコトナカルベシ  
甲、日本憲兵隊ト英國租界工部局警察トノ協力ニ關聯スル

諸措置

二、戸口調査

英國租界工部局警察ハ從來通り一切ノ英國租界内居住者ノ嚴密ナル記録簿ヲ保有スベシ右記録簿ハ希望スルトキハ日本憲兵隊ニ於テ之ヲ領得シ得ヘク英國租界工部局警察ハ本記録簿ヲ照合スル爲從來通り一廓ノ家屋群及個々ノ家宅ニ對シ搜查ヲ施行スルモノトス

英國租界工部局警察ハ右搜查計畫ヲ豫メ英國租界工部局警察附日本連絡將校(七項ノイ)參照ニ通報シ以テ日本憲兵隊ニ其ノ希望スル場合一名若ハ數名ノ立會人ヲ派遣スルノ機會ヲ與フルモノトス日本憲兵隊ハ其ノ連絡將校ヲ通ジ英國租界工部局警察カ右記録簿ヲ照合スルニ當リ之ニ權限内ノ凡ユル援助ヲ與フベク他方家宅ニ關シ何等容疑ノ情報ヲ有スルトキハ之ヲ英國租界工部局警察ニ通報シ右ニ基キ必要アル場合搜查ヲ行ハシムルモノトス日本憲兵隊ノ立會人ナクシテ英國租界工部局警察ニ依リ搜查施行セラレタル場合ハ斯ル搜查ノ

結果ヲ日本連絡將校ニ於テ領得シ得ルモノトス  
二、武器及爆發物

武器及爆發物ノ輸入ハ支那海關ニ依リ管理セラレ居リ之等ハ其ノ輸入ニ先チ護照ヲ必要トス

英國租界内ニ於ケル武器及爆發物ノ取引及製造ニハ英國租界參事會ノ發行スル許可證アルヲ要スルモノナルガ斯ル許可證ハ未ダ發行セラレタルコトナシ

武器ノ所持ニモ亦許可證ヲ要シ右許可證ハ素行正シキ者ノ護身用武器ノ携帯ヲ許可スル爲英國租界參事會ニ於テ發行ス

英國租界工部局警察ハ前記要領ニ依リ發行セラレタル許可證ニ付其ノ有スル詳細ヲ日本憲兵隊ニ於テ檢査シ得ル様スルモノトス許可セラレタル人及商社ニ對スル檢査ハ英國租界工部局警察ニ依リ其ノ發意ニ基キ又ハ日本憲兵隊ノ供給スル情報ニ基キ行ハルモノトス日本憲兵隊立會人ハ斯ル檢査ニ出席方招請セラルベク若シ立會人ノ出席ナカリシ場合ニハ日本連絡將校ハ檢査ノ結果ニ付通報セラルルモノトス犯罪ノ意思ヲ以テ武器若ハ爆發物ヲ無許可ニ所持セル者發見セラレタルト

キハ右ハ裁判ノ爲天津地方法院若ハ天津高等法院ニ送致セラルベシ

三、劇場、映畫館及政治集會ノ視察

(イ)、英國租界内ニハ劇場無シ

(ロ)、映畫「フィルム」ニ關シテハ英國租界内ニ於テ上

映セラルルモノノ殆ド凡テハ嚴重ナル檢閲行ハレ居ル上海共同租界ニ於テ既ニ上映セラレタルモノナリ仍テ天津ニ於テ更ニ檢閲ヲ行フノ要殆ト無キモ英國租界工部局警察ハ一切ノ映畫館ニ對シ當該月中ニ上映セラルヘキ映畫ノ表ヲ豫メ提出セシメ居レリ右表ハ日本連絡將校ヲ通ジ日本憲兵隊ニ於テ領得シ得ベク且日英兩官憲ニ於テ安寧ヲ紊ルノ惧アリ其ノ他面白カラズト認ムル「フィルム」ニ付テハ日本側立會人一名出席ノ上試寫ヲ行フ様取計フモノトシ英國官憲ハ此ノ點ニ關シ日本官憲ノ提起スル異議ニ對シ充分ノ考慮ヲ拂フベシ本件ニ關聯シ一般ニ認メラレタル「ニュース」映畫取扱者ノ提供スル「ニュース」映畫ノ上映ニハ何等異議ナカルベク但日英關係ニ害アルガ如キ映畫ハ上映セザルモノト了解ス

四、出版。

(ハ)、英國租界ノ規則ニ依レバ英國租界内ニ於テハ政治的集會ノ開催ヲ許可セズ然レドモ將來斯ル集會ガ許可セラルコトアリトスルモ英國租界工部局警察ハ右ニ臨場スベク且日本憲兵隊ニ於テ希望アラバ之ニ同行スベキ立會人ヲ派遣スルコトヲ得

現存規則ノ下ニ於テハ英國租界内ニ於テハ許可證ナクシテ出版物ヲ印刷若ハ頒布スルコトヲ得ズ英國租界工部局警察ハ許可證ナクシテ英國租界内ニ於テ印刷頒布セラレタル出版物ヲ搜查沒收スルコト從來通りナルベシ

英國租界工部局警察ニ於テ其ノ頒布ガ日本軍ノ安全上若ハ天津方面ニ於ケル秩序ノ維持上有害ナルガ如キ無許可出版物ニ關シ搜索ヲ行ハントスルトキハ日本憲兵隊ニ於テ希望スル場合日本人立會人一名若ハ數名ヲ派遣シ得ル様豫メ右搜索ノ計畫ヲ日本憲兵隊ニ通報スルモノトス且此種措置ノ結果得タル情報ヲ日本憲兵隊ニ領得セシムルモノトス

右ノ場合日本官憲ヨリ關係情報ヲ提示ノ上要請アルト



キ亦英國租界工部局警察ニ於テ措置ヲ採ルモノトス  
將來出版許可證ノ申請アル場合ニハ許可證ノ與ヘラル  
ベキ出版物ノ性質ニ關スル情報ヲ日本官憲ニ通報スル  
旨取極メラレタリ  
五、碼頭ニ於ケル検査

英國租界内碼頭ニ到着前若ハ同碼頭ヲ離レタル後船舶  
ヲ検査スルコトハ航運及船客ニ不便ヲ與フベキヲ以テ  
右ヲ避クル爲英國租界波止場ニ於テ乗降スル船客及船  
員ニ對シ英國租界工部局警察ガ検査ヲ爲スコト望マシ  
キ旨取極メラレタリ

右警察検査ニハ日本憲兵隊ガ立會人トシテ出席シ得ベ  
ク検査ハ直チニ實施セラルベキ旨取極メラレタリ  
六、抗日分子ノ逮捕及處分

英國租界工部局警察ハ日本軍ノ安全若ハ天津方面ニ於  
ケル治安ノ維持ニ有害ナル抗日活動ニ從事スル者ヲ逮  
捕スル爲今後モ自ラ凡ユル努力ヲ爲スベク且逮捕ノ爲  
サレタルコト又ハ斯ル際ニ得タル情報ヲ直チニ日本憲  
兵隊ニ通報スルモノトス時間ノ餘裕アル場合英國租界  
工部局警察ハ逮捕ノ計畫ヲ豫メ日本憲兵隊ニ通報シ以

テ同隊ニ於テ希望スル場合ハ日本側立會人一名若ハ數  
名ヲ派遣スルヲ可能ナラシムルモノトス英國租界工部  
局警察ハ斯ル場合日本官憲ノ要請ニ基キ措置ヲ執ルベ  
ク右目的ノ爲ノ日本側ノ協力ヲ歡迎ス凡テ斯ル場合ニ  
ハ左記手續ヲ採ルモノトス

英國租界工部局警察ガ日本憲兵隊又ハ日本領事館警察  
ヨリ抗日活動ニ從事シ又ハ右ニ關係アリト認メラルル  
者ヲ逮捕シ度キ旨ノ要請ニ接シタルトキハ同租界警察  
ハ希望ニ依リ日本憲兵隊若ハ領事館警察ノ係官一名若  
ハ數名ヲモ立會人トシテ帶同ノ上指示ノ地點ヘ赴クモ  
ノトス

次デ被疑者及犯罪證據ノ搜查ヲ爲スモノトス逮捕セラ  
レタル者ハ犯罪證據ト共ニ英國租界工部局警察本部ニ  
送置セラルルモノトス若シ其ノ際逮捕セラレタルモノ  
カ刑事犯罪ヲ犯シタルカ又ハ其ノ行動カ「テロ」行爲  
ヲ目的トシ居リタル證據發見セラレタルトキハ右ノ者  
ハ直チニ天津地方法院若ハ天津高等法院ヘ裁判ノ爲引  
渡サルルモノトス若シ右搜查ニ於テ具体的ナル犯罪證  
據舉ラザリシ場合ニモ右ノ者カ抗日「テロ」行動ヲ爲

シタリトノ重大ナル嫌疑存在スルトキハ右ノ者ハ日本憲兵隊ノ要請ニ基キ審問ノ爲直チニ同隊ニ引渡サルコトアルベシ右ノ場合英國租界工部局警察ハ充分ナル取調ヲ行フノ權利ヲ留保シ其ノ豫備的取調ヲ被疑者ノ氏名、住所、其他ノ事項ヲ記錄シ且指紋及寫眞ヲ取ルニ止ムルモノトス尤モ斯ル場合英國租界工部局警察ハ日本憲兵隊ニ依リ行ハルル取調ニ立會ハシムル爲職員一名ヲ派遣スルノ權利ヲ有スルモノトス「テロ」行爲ノ性質ヲ有セザル。抗日行動ヲ爲セリトノ強キ嫌疑アル者モ同様審問ノ爲引渡サルコトアルベキモ此ノ場合ハ先ヅ英國租界工部局警察ニ依ル充分ナル取調ヲ行フベキモノトス

日本憲兵隊力逮捕ノ要請ヲ爲ス場合ハ其ノ有スル情報ニ依リ逮捕セラレタルモノガ事實上抗日活動ヲ爲セリトノ重大ナル嫌疑ヲ有スルニ至リタル場合ノミニ限ラルベク、右ノ如キ情報ハ逮捕ノ申出前英國租界工部局警察ニ對シ(必要ノ場合ニハ機密ニ警察署ニ對シ)提示セラルベク右措置ニ依リ日本憲兵隊ニ引渡サレタル者ハ何等虐待セラルルコト無カルベク、英國總領事トノ

事前ノ合意ニ依リ期間延長ノ取極メラルルコトアルベキ特別ノ場合ヲ除キ之等容疑者ハ五日間以内ニ英國租界工部局警察ニ返還セラルベク、且其ノ返還ニ當リ右ノ者カ天津地方法院若ハ天津高等法院ニ依ル裁判ヲ受クル爲引渡サルベキモノトスルカ又ハ英國租界ヨリ追放セラルベキモノトスルカハ日本憲兵隊ガ何レナリトモ要請シ得ベキ處ニシテ斯ル要請ニハ出來得ル限り完全ナル證據ヲ附屬セシムベク且日本官憲ノ要請ニ基キ英國租界警察ノ爲セル逮捕若ハ其ノ採レル措置ヨリ生ズル一切ノ責任ハ日本官憲ニ於テ之ヲ負ヒ英國租界參事會ヲシテ負ハシメザルベシトノ諸點ニ付了解ヲ見タリ

英國租界工部局警察ハ日本憲兵隊ニ爲セル犯罪自白ガ虐待ノ結果爲サレタリトノ理由ニ依リ之ヲ取消スコトヲ認メザルベシ但シ斯ル虐待ノ肉体的證據アル場合ハ此ノ限ニ非ルモノトス

英國租界工部局警察ガ提出セラレタル情報ヲ審査セル結果當該者カ刑事犯罪ヲ犯セルカ又ハ其ノ活動カ抗日「テロ」行爲ヲ目的トセリトスル一應ノ證據存在スト

認メタル時ハ右ノ者ハ天津地方法院若ハ天津高等法院ニ裁判ノ爲引渡サルベキモトス他方英國租界工部局警察ニ於テ右ノ者ガ輕微ナル政治的性質ノ違反ヲ犯シタリトノ證據ヲ發見セルニ止マル場合ニハ右ノ者ハ英國租界ヨリ追放セラルルモノトス追放セラレタル者英國租界ニ歸來セル場合ニハ直チニ支那地方官憲ニ引渡サレ其ノ處分ニ委セラルルモノトス

此等諸點ノ何レニ付テモ證據不充分ナル場合右ノ者ハ釋放セラルルモノトス  
警察協力ヲ圓滑ナラシムル爲ノ其ノ他ノ措置

前記協力措置ヲ一層圓滑且有效ニ運用セシムル爲其ノ他左記諸點ニ關シ取極ラレタリ

(イ)、日本憲兵隊ト英國租界工部局警察トノ間ニ連絡將校ヲ交換スベシ選任セラレタル將校ノ氏名及資格ハ之ヲ日本將校ノ場合ニ在リテハ在天津英國總領事及英國租界參事會會長ニ又英國將校ノ場合ニ在リテハ在天津日本憲兵隊主任將校ニ夫々豫メ提示シテ其ノ承認ヲ求ムルモノトス連絡將校ハ雙方トモ執行の職能ヲ有スルコトナク其ノ職務ハ全ク英國租界工部局

警察ト日本憲兵隊トノ連絡事務ニ限ラルルモノトス選任セラレタル將校カ困難ナク日英兩國語ヲ話シ得ルコト肝要ナリト認メラル

(ロ)、日本領事館警察事務所ヲ英國租界内舊日本總領事官邸ニ臨時ニ設置スベク十名ヲ超エザル日本憲兵隊員ノ右建物内ノ居住許可セラルベク以テ前記英國租界工部局警察トノ協力措置ヲ執行スル場合日本憲兵隊員ニ於テ常ニ迅速ニ參加シ得ルニ資スルモノトス其ノ職務ハ取極通り嚴ニ立會人タルノ權限ニ限ラレ英國租界内ニ於テハ何等獨立ナル執行の權限ヲ行使スルコト無カルベシ本件憲兵ハ制服ヲ着用セザルベシ一定日時ニ於テ英國租界工部局警察トノ協力職務執行ノ關係上十名以上ノ日本憲兵ヲ英國租界内ニ所在セシムルコト必要ナルガ如キ場合ニハ其ノ日ニ限り右人數ヲ二十五名ヲ限度トシテ増加シ得ルモノトス右増員憲兵ハ該任務ニ服スル際舊日本總領事官邸ヲ其ノ本部トシ同處ニ於テ食事ヲ爲スモノトス但シ如何ナル場合ニモ英國租界内ニ於テ二十五名以上ノ日本憲兵ガ服務スルコト無カルベク又如何ナル場合

二十名以上居住スルコト無カルベシ

英國租界内ニ日本憲兵ノ居住方ヲ許可セラルル期間ハ出來得ル限り短期間ナルベク且本覺ノ發效期日ヨリ三ヶ月内ニ右憲兵ノ居住ニ付再考スルモノトス

乙、其ノ他ノ措置

一、學校

英國租界參事會ハ既ニ佈告ニ依リ英國租界内學校ニ對シ其ノ教科書ヨリ宣傳的性質ヲ有スル教材ヲ除去スルノ義務ヲ負擔セシメ居レリ英國租界參事會ハ定期的査閲ヲ行フベク右査閲ニハ前記命令カ名實共ニ實施セラレ居ル旨ヲ確メ且特定國民ヲ目標トスル如何ナル煽動モ許サレ居ラザルコトヲ確メシムル爲地方教育署ノ代表一名出席方招請セラルルモノトス英國租界參事會ハ本件ニ關シ英國租界參事會ノ命令ノ違反アリトスル責任官憲ヨリノ特別ノ申出ヲ受理スルモノトス宣傳的教育ノ排除ハ特定國民ニ有利ナル宣傳ノ招來ヲ意味スルモノニアラザルハ勿論ナリト了解セラル

二、無線電信送信所

英國租界參事會ハ其ノ認可ノ下ニ現在英國租界内ニ於

テ運營セラレ居ル一切ノ無線電信送信所ヲ閉鎖スルコトニ同意ス但シ左ノモノヲ除ク

1、吳淞平カ單ニ船舶ヘノ通信送達ノ爲運營シ居ル長

波無線臺

2、開灤鑛務局ノ運營シ居ル無線臺

此等無線臺ハ何レモ官設電信局ノ幹旋ニ依リ適當ナル官憲ヨリノ認可ヲ得テ運營セラルベキモノトス

以上ハ大沽曄會社、太古洋行及怡和洋行ニヨリ天津、塘沽及大沽間ニ運營セラレ居ル無線電話ニ付テハ適用ナカルベク本無線電話ハ是等三地點間ノ電話通信ガ復舊シ天津、塘沽及大沽ニ所在スル各船舶會社支店間ノ通信ニ對シ適當ナル便益供與セラルルニ至ル迄ハ依然使用セラルルモノトス又以上ハ大沽曄會社及太古洋行ガ天津、塘沽及大沽ト河川上ノ若ハ「バー」碇泊ノ船舶トノ間ニ無線電話連絡ヲ行フ場合ニモ適用ナカルベシ

某米國人ニ依リ運營セラレ居ル商業無線臺ハ本覺ノ發效期日ヨリ二箇月間運營ヲ許容セラルベキ旨竝ニ右無線臺ヲ閉鎖スル場合支那地方官憲ニヨリ運營セラルル

正式電信局ハ直チニ其ノ本店竝ニ英國租界内ノ支店ニ於ケル業務ヲ改善シ以テ英國租界内居住者ニ對シ合理的且無差別的料金ニテ適當ナル便益ヲ提供スベキ旨夫々了解ヲ見タリ日本官憲ハ支那電信局ノ提供スル便益ガ現在米國無線臺ノ提供シ居ルトコロト同様ナルベキ様幹旋ヲ爲スベキ旨約スルモノトス支那地方電信局ノ提供スル業務ニ關聯シ生ズルコトアルベキ諸問題ハ日英總領事間ニ地方的ニ討議セラルベシ

英國官憲ハ一切ノ前記無線臺ハ權利トシテ運營繼續方許容セラルルニ非ズシテ實際上ノ必要ヨリ許容セラルルモノナリトノ日本官憲ノ主張ヲ記錄ス

檢閱ニ關シテハ吳朝平ノ無電臺ニハ既ニ檢閱官一名附屬セシメラレ居レリ善意ノ外國商社ヨリ發セラルル通信ニ對シテハ檢閱ナカルベキ旨了解ヲ見タリ信用アル商社ハ其ノ善意ニ付通常ノ場合疑ハルコトナカルベク斯ル疑ヲ生ジタル場合ニハ關係領事ニ於テ發信ニ捺印スベク右ニ依リ發信者ノ善意證明セラレタルモノトス英國租界參事會ハ更ニ(若シアリトセハ)英國租界内ニ於ケル無許可無線臺ノ嚴重ナル搜查ヲ爲スコトヲ承

諾シ且右ニ關聯シ日本憲兵隊ノ協力ヲ歡迎ス日本憲兵隊ハ此ノ點ニ付其ノ有スル一切ノ情報ヲ英國租界工部局警察ニ轉報スルモノトス  
三、通常犯罪人ノ逮捕及處置

刑事犯罪ノ嫌疑ヲ有スル者ノ逮捕審問及裁判ノ爲ノ引渡ニ關スル英國租界當局ト支那地方官憲トノ間ノ協力ニ關シテハ從來英國租界ニ於テ遵守セラレタル手續ガ將來モ依然採用セラルベキコトニ同意ス右手續ハ左ノ如キモノナル旨同意ヲ見タリ

支那法權ニ服スルモノニシテ英國租界工部局警察ノ發意ニ依リ英國租界内ニ於テ逮捕セラレタル者ハ英國租界工部局警察ノ作成シタル告發狀ト其ノ提出シタル證據トヲ添ヘ天津地方法院又ハ天津高等法院ニ之ヲ引渡スモノトス告發狀ハ在天津英國總領事館館員ノ署名アルモノトス

天津地方法院又ハ天津高等法院ノ發スル逮捕狀召喚狀等ハ是等ガ正規ノ形式ヲ備フル場合即チ一定刑事犯罪ヲ明示シ且當該者ガ法院ノ管轄下ニアル等ノ場合ニ於テ執行セララルモノトス是等逮捕狀召喚狀等ハ執行ニ

當リ豫メ英國總領事館館員ノ署名ヲ得ルコトヲ要ス  
英國租界規則及細則ノ違反ハ從來通英國租界工部局警察署長ニ依リ即決セラルベシ更ニ重大ナル違反ニシテ一層嚴重ナル措置ヲ必要トスル場合ニハ違反被疑者ハ天津地方法院又ハ天津高等法院ノ裁判ニ附セラルコト望マシトスルニ合意セラレタリ



1659

昭和15年 6月13日

在仏国沢田大使より  
有田外務大臣宛(電報)

天津租界問題に関する協定の締結に应じるよ  
う仏国外務省亜細亞局長を説得について

ツール 6月13日後発

本省 6月14日前着

第五一四號

十二日立退先ノ「ホテル」ニテ亞細亞局長ト出遇ヒタルヲ以テ

一、先般谷次官「アンリー」大使會談ノ件ニ關シ尋ネタルニ  
同局長ハ右報告ニハ接シ居ルモ天津問題ニ關シテハ英ハ  
常ニ重慶政府ト接觸ヲ保チ居ルモ佛側ハ一度モ同政府ニ

聯絡シ居ラサルヲ以テ一應ノ渡リヲ附ケタク考ヘ居レリ  
ト語レルニ依リ本使ハ英方御説ノ如ク重慶側ト接觸シタル上ニテ出來上リタル解決案ニ對シ佛側カ同意シタリトテ重慶側ニ異議アル筈ナシト考ヘラルル旨述ヘタルニ同局長ハ右ハ一種ノ手續ノ問題ニ過キササルニ付暫ク猶豫アリタク「イニシアル」ハ英ニ遅ルルコトアリトモ正式調印ハ英側ト同時ニ行フ様致度シト考ヘ居ル旨語レリ  
ニ、同局長ハ印度支那ニ關スル諸問題ニ付テモ事態平靜ニ歸シタル上考慮シタキ旨語レルニ付新任ノ事務及政務次官トモ本使ニ對シ極東問題ニ關シテハ好意ヲ以テ考慮シ行キタキ旨語リ居レルニ鑑ミ極東ニ關スル智識深キ局長ニ於カレテモ事ヲ進メル氣持ヲ以テ處セラレタク一段ノ期待ヲ囑シ居ル旨強調シ置キタリ

英へ轉電セリ



1660

昭和15年 6月17日

有田外務大臣より  
在北京藤井大使館參事官、在天津武藤  
總領事宛(電報)

天津租界問題に関する協定締結を仏国側が応

諸したところ封鎖解除の予定日時につき現地  
軍へ照会方訓令

本省 6月17日後7時30分発

合第一二八七號(大至急)

一、十七日午後「アンリー」佛國大使次官ヲ來訪シ天津佛國租界問題ニ關スル日本側申入ヲ全部受諾シ原則協定竝ニ治安、現銀及通貨ノ三協定ヲ取極ムル用意アル旨尤モ右ハ日英間公文交換ノ翌日ニ實行致度旨回示シ來レリ

二、一方英國側ヨリハ來ル十九日(水曜日)中ニ公文ノ交換ヲ了シ翌二十日ノ新聞ニ掲載スル様共同發表ヲ行ヒ度旨本國政府ヨリ電報アリタル處日本側ノ都合ヲ承知シ度旨申出アリ

三、仍テ陸軍省ト連絡シタル處佛國側トノ間ニ原則協定ノミハ日英間ノ公文交換ト同日ニ取極メ且之ヲ其ノ翌日(即チ日英共同發表及檢問檢索解除實施ノ日)發表スルコトヲ條件トシテ二十日ニ隔絶解除實施可能ナリヤ否ヤヲ現地ニ照會スヘシト述ヘタリ

就テハ貴官ニ於テモ至急軍側ト連絡シ二十日ヨリ隔絶解除實施可能ナリヤ否ヤ御確メ相成度若シ不可能ナリトセハ實

施可能ノ日取確定ノ上至急回電アリ度  
本電宛先北京、天津

1661 昭和15年6月18日 在北京藤井大使館參事官より  
有田外務大臣宛(電報)

天津英仏租界封鎖解除の予定日時や発表に關する要望など現地軍の意向につき報告

北京 6月18日後発  
本省 6月18日後着

第四七二號(大至急)

貴電合第一二八七號ニ關シ(天津英佛租界問題)

十七日夜ハ軍側トノ連絡不可能ナリシヲ以テ十八日午前崎ヲ方面軍司令部ニ派遣シ有末高級參謀竝ニ係官宮本參謀ト折衝セシメタル處結果左ノ通り

一、隔絶解除ハ二十日ノ午後六時ヲ豫定ス

二、佛國側トノ調印ハ二十日午前中ニ完了ヲ希望ス(至急通報アリタシ)

三、新聞發表ハ二十日(朝刊ニスルヤ夕刊ニスルヤニ對シテハ追電ス)佛國側ト協定成立セル旨ヲ發表セラレタシ右



新聞發表ニ當リテハ歐洲ノ新情勢ニ對應シ帝國ノ態度決定ヲ拘束シ或ハ帝國カ親英又ハ親佛方針ヲ執リ居ルヤノ印象ヲ與ヘサル様充分注意セラレタシ

四、方面軍トシテハ租界ノ實質的回收ヲ企圖シ差當リ輸入爲替管理ヲ二十五日ヨリ實施スヘキニ付了承セラレタシ  
(此ノ點ハ連絡部ヨリ本院ニ請訓ノ筈)

五、尤モ方面軍トシテハ佛國ノ降伏セル矢先本取極ヲ調印シ且發表スルコトハ得策ナラサルヲ以テ出來得レハ調印ヲ一、二週間延期シタキ強キ希望アリ

六、陸軍電ハ冒頭ニ此ノ點(五)ヲ強調スヘシ(五、ハ寺崎歸館後宮本參謀ヨリ電話連絡アリタリ)

尙本電ハ十二時迄ノ經過ニシテ方面軍ハ重ネテ目下細目ノ點ニ付天津ト連絡中且軍側ヨリハ當方發電ハ暫ク待タレタキ旨希望越セルモ不取敢電報ス取扱上御注意請フ  
天津ヘ轉電セリ

1662

昭和15年6月18日  
在北京藤井大使館參事官より  
有田外務大臣宛(電報)

天津租界を經濟的に回收する企圖を方面軍司

### 令部の有末參謀が力説について

北京 6月18日後發  
本省 6月18日夜着

第四七六號(極祕、館長符號扱)  
往電第四七二號ニ關シ

有末參謀ハ寺崎ニ對シ歐洲新情勢ニ鑑ミ不介入方針ハ訂正ヲ要スル時期ニ到達セリト思考スル處差當リ天津問題ヲ右新方針ト切離シテ解決スルコトニハ反對セ(サ)ルモ右トハ別個ニ天津租界回收ノ希望ハ堅持スル次第ナリ而シテ外交的回收竝ニ軍事的回收ハ種々難點アルヘキヲ以テ經濟的回收ヲ企圖シ昨十七日夜(不明、二字脱)サイト會見具體案ヲ練リタルカ右ハ更ニ今十八日係參謀ニ命シ推敲中ナル處自分ノ考ナルコトカ中央ニ知ルレハ獨伊參戰論ト邪推スヘキヲ以テ本日中ニ案ヲ練リ軍ノ意嚮トシテ出來得レハ明日東京ニ赴ク豫定ナル參謀副長ニ携行ヲ依頼スル積リナリ自分(有末)ノ考ノ大綱ハ磅ノ下落ハ法幣ノ下落トナリ右ハ必然的二聯銀券ノ下落トナルヘキヲ以テ聯銀ト法幣トヲ切離ス爲ニハ租界ノ實質的回收(經濟的侵略)ヲ必要トスト言フニ在リ而シテ米國トノ關係上困難ナルヘキモ天津丈ケハ是非



共實行シタキ考ヲ有スト述ヘタリ右ハ當方面ノ空氣ヲ相當  
有力ニ反映シ居ルモノト認メラルルヲ以テ御參考迄

~~~~~

1663

昭和十五年六月十九日

有田外務大臣より
在英国重光大使、在北京藤井大使館参
事官、在天津武藤總領事宛(電報)

日英間に天津英租界問題に関する公文交換を
了し日仏間にも中国の事態に関する一般原則
の署名完了について

付記一 昭和十五年六月十九日付有田外務大臣より在

本邦クレイギー英国大使宛公信亜一普通第九

五号

天津英租界に関する日英交換公文往翰

二 昭和十五年六月十九日付有田外務大臣より在

本邦クレイギー英国大使宛公信亜一普通第九

六号

天津英租界に関する日英交換公文返翰

三 昭和十五年六月十九日署名

右一般原則に関する日仏覚書

合第一三〇六號

本省 6月19日後7時0分発

十九日午後本大臣「クレイギー」間ニ天津英租界問題ニ關
スル公文ノ交換ヲ了シ且「アンリ」トノ間ニモ所謂原則協
定ニ「イニシャル」ヲ了セリ
本電宛先英、北京、天津
上海、南京、香港、青島、米ニ轉電セリ

(付記一)

亞一普通第九五號

以書翰啓上致候陳者在天津英國租界ニ關スル諸般ノ問題ニ
付過般來閣下ト谷外務次官トノ間ニ行ハレタル會談ノ結果
別添覺書^(電報)ノ如キ了解ニ到達シタル處日本國關係官憲ハ右了
解ニ基キ必要ナル措置ヲ執ルヘキ旨閣下ニ通報スルノ光榮
ヲ有シ候

右申進旁本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候

敬具

昭和拾五年六月拾九日

外務大臣 有田 八郎

大不列顛國特命全權大使

「サー・ロバート・クレীগー」閣下

編注 別添覚書のうち、治安問題覚書は本書第1658文書付記として採録。現銀処理問題および通貨問題覚書は見当らないが、内容については本書第1666文書の日英共同コミ

ュニケ参照。

(付記二)

亞一普通第九六號

以書翰啓上致候陳者本日附貴翰ヲ以テ左ノ如ク御通報相成敬承致候

「在天津英國租界ニ關スル諸般ノ問題ニ付過般來本使ト谷外務次官トノ間ニ行ハレタル會談ノ結果別添覺書^{編注}ノ如キ了解ニ到達シタル處英國關係官憲ハ右了解ニ基キ必要ナル措置ヲ執ルヘキ旨閣下ニ通報スルノ光榮ヲ有シ候」

右回答申進旁本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候

敬具

昭和拾五年六月拾九日

大不列顛國特命全權大使

「サー・ロバート・クレীগー」閣下

編注 本文書付記一の編注に同じ。

(付記三)

佛國政府ハ大規模ノ戰鬪行爲進行中ナル支那ニ於ケル現實ノ事態ヲ完全ニ承認シ又斯カル狀態カ存續スル限り支那ニ於ケル日本軍カ自己ノ安全ヲ確保シ且其ノ勢力下ニ在ル地域ニ於ケル治安ヲ維持スル爲特殊ノ要求ヲ有スルコト竝ニ日本軍ヲ害シ又ハ其ノ敵ヲ利スルカ如キ一切ノ行爲及原因ヲ排除スルノ要アルコトヲ認識ス佛國政府ハ日本軍ニ於テ前記目的ヲ達成スルニ當リ之カ妨碍トナルヘキ何等ノ行爲又ハ措置ヲ是認スルノ意思ヲ有セス此ノ機會ニ於テ斯カル行爲及措置ヲ控制スヘキ旨在支佛國官憲及佛國國民ニ明示シ以テ右政策ヲ確認スヘシ

昭和十五年六月十九日

外務大臣官邸ニ於テ

外務大臣 有田 八郎

外務次官
佛國大使（イニシヤル）



1664

昭和15年 6月19日
有田外務大臣より
在英國重光大使、在独国来栖大使他宛
（電報）

天津租界問題の解決に關し独伊兩國へ説明に
ついて

本省 6月19日後8時30分發

合第一三一三號（極秘）

天津英佛租界問題ノ解決ハ明二十日發表ノ筈ナルカ其ノ曉
英國側ニテ之ヲ東亞ニ於ケル日英協調ノ端緒ナリト囃シ立
ツル等一方的ノ宣傳ニ利用スルコトナキヲ保セス之カ英ニ
反對ノ側ニモ我方ノ欲セサル影響ヲ及ホス虞モアルヤニ認
メラレタルニ付（情報部長談モ此ノ點ハ充分考慮シ起案シ
タル次第ナリ）爲念十九日東亞局長ヲシテ在京獨乙及伊太
利大使館參事官ノ來訪ヲ求メ英及佛トノ間ニ成立セル了解
ノ内容ヲ内報スルト共ニ本件ハ我方ノ歐洲交戰國ニ對スル
既定ノ態度ニ何等ノ變更ヲ及ホスモノニ非サルコト勿論ナ

ル趣ヲ説明セシメ置ケリ
獨ヨリ伊ニ轉電アリ度

南京、上海、香港、米ニ轉電セリ



1665

昭和15年 6月20日
有田外務大臣より
在仏国沢田大使、在北京藤井大使館參
事官、在天津武藤總領事宛（電報）

日仏間に天津仏租界問題に關する公文交換完
了について

付記一 昭和十五年六月二十日付有田外務大臣より在

本邦アンリ仏国大使宛公信亜一普通第二四号

天津仏租界に關する日仏交換公文往翰

二 昭和十五年六月二十日付有田外務大臣より在

本邦アンリ仏国大使宛公信亜一普通第二五号

天津仏租界に關する日仏交換公文返翰

本省 6月20日前10時發

合第一三一三號

二十日午前本大臣ト佛國大使トノ間ニ天津佛國租界問題ニ
關スル公文ノ交換ヲ了セリ

本電宛先 北京、天津、佛

(付記一)

亞一普通第二四號

以書翰啓上致候陳者在天津佛國租界ニ關スル諸般ノ問題ニ付過般來閣下ト谷外務次官トノ間ニ行ハレタル會談ノ結果別添覺書ノ如キ了解ニ到達シタル處日本國關係官憲ハ右了解ニ基キ必要ナル措置ヲ執ルヘキ旨閣下ニ通報スルノ光榮ヲ有シ候

右申進旁本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候

敬 具

昭和十五年六月二十日

外務大臣 有田 八郎

佛蘭西國特命全權大使

「シャルル、アルセーヌ、アンリー」閣下

(別 添)

覺書第一(假譯)

昭十五、六、二

租界内ニ於ケル治安ノ維持

天津佛租界内ニ於ケル治安ノ維持ニ關シ取極ヲ行フモノトス右取極草案ハ在天津日佛兩國總領事ニ於テ日英兩國官憲間ニ成立セル了解及天津佛國租界ニ特殊ナル事情ヲ參酌シ之ヲ起草ス

右草案ハ在東京佛國大使及外務次官ニ提出セラルヘク其ノ承認ヲ經タルトキハ本覺書ニ代ルモノトス

覺書第二(假譯)

(昭十五、六、二)

銀貨及銀塊

一、天津中國銀行、河北省銀行及天津市銀錢業公庫ニ現存スル銀貨及銀塊ハ在天津日佛兩國總領事共同封印ノ下ニ引續キ現在ノ場所ニ存置セラルヘシ

二、左記第三項規定ノモノヲ除キ本件現銀ハ其ノ保管ニ付日佛兩國政府カ別途協定ニ達スルニ至ル迄之ヲ封印シ置クモノトス本件現銀ハ在天津日佛兩國總領事ノ面前ニ於テ封印セラルヘシ

三、右ノ如ク現銀ヲ封印スルニ先チ英貨二十萬磅ノ額ニ相當スル量ヲ分離シ之ヲ北支ノ或ル地區ニ於ケル水害竝ニ他ノ地域ニ於ケル早害ヨリ直接生シタル饑饉狀態ノ救済ノ

基金ニ充ツルモノトス

右救済ハ水害地域ヨリ排水シ疫病ノ危険ヲ減少セシムル爲外國ヨリ至急購入ノ要アル機械ノ供給ヲモ含ムモノトス

四、關係佛國官憲ハ前記ノ如ク分離セラレタル現銀ヲ救済用途ニ充テ之ヲ賣却シ且救済ニ必要ナル食糧品其ノ他ノ物資ノ購入ニ使用シ得ル様一切ノ出來得ル限りノ便宜ヲ供與スルノ用意ヲ有ス

五、在天津日佛兩國總領事ハ専門家ヲ任命シ右専門家ハ兩國總領事監督ノ下ニ本件基金ノ管理ニ付兩國總領事ヲ輔佐シ且救済ニ必要ナル食糧品其ノ他ノ物資ノ分配ニ關シ現存ノ在北京救災委員會ニ助言ヲ與フルモノトス日佛兩國専門家ノ外更ニ支那人英國人専門家及其ノ他ノ國籍ヲ有スル専門家一名ヲ招請シ本件事業ヲ輔佐セシムルモノトス

覺書第三(假譯)

通 貨

(昭五、六、二十)

佛國租界工部局參事會ハ英國租界内ニ於ケル中國聯合準備

銀行券ノ使用ニ對シ何等障害ヲ爲サザルベシ

佛國租界工部局參事會ハ一九三九年前ニ設立セラレザリシ一切ノ兩替店ノ營業許可證ヲ撤回スルニ決定セリ今後營業許可證ハ支那銀行公會ノ保證アリ且適當ナル資本ヲ有スルモノニ非ザレバ新ニ之ヲ發給セザルベシ營業許可證ハ毎月之ヲ更新スルモノトス

上記措置ノ適用ニ關聯シ生ズルコトアルベキ諸問題ハ日佛兩國總領事間ニ現地ニ於テ論議セラルルモノトス

(付記二)

亞一普通第二五號

以書翰啓上致候陳者本日附貴翰ヲ以テ左ノ如ク御通報相成敬承致候

在天津佛國租界ニ關スル諸般ノ問題ニ付過般來本使ト谷外務次官トノ間ニ行ハレタル會談ノ結果別添覺書^{右略}ノ如キ了解ニ到達シタル處佛國關係官憲ハ右了解ニ基キ必要ナル措置ヲ執ルヘキ旨閣下ニ通報スルノ光榮ヲ有シ候

右回答申進旁本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候

敬 具

昭和十五年六月二十日

外務大臣 有田 八郎

佛蘭西國特命全權大使

「シャルル・アルセーヌ・アンリー」閣下

~~~~~

1666

昭和十五年六月20日

天津英租界問題の解決に関する日英共同コミ

ュニケ

外務省發表

(昭和十五年六月二十日)

天津英國租界ニ關スル諸問題ニ付客年七月以來日英兩當局  
間ニ行ハレタル話合ノ結果左ノ諸點ニ關シ意見ノ合致ヲ見  
タリ

一、天津英國租界内ニ於ケル治安ノ維持

治安ノ維持及日本軍ノ安全ニ害アル一切ノ「テロ」活動  
彈壓ノ爲天津英國租界當局及現地日本官憲間ノ一層緊密  
ナル協力ヲ行フコトニ付詳細ナル打合ヲ遂ケタリ

英國租界工部局警察カ日本官憲ノ關心ヲ有スル犯罪の活  
動ヲ行フ人物ニ對シ措置ヲ執ル場合日本憲兵カ情報ヲ供

給シ且立會フコトニ付テモ特ニ打合ヲ遂ケタリ

尙右英國租界工部局當局ノ措置ハ武器及爆發物ノ取引ニ  
對スル取締、出版、映畫及政治的集會ニ對スル取締竝ニ  
前記ノ如キ活動ニ從事スル人物ノ逮捕及處分ヲ包含ス  
不法無線通信ノ取締ニ付テモ亦打合ヲ遂ケタリ

二、銀貨及銀塊

天津交通銀行ニ現存スル銀貨及銀塊ハ在天津日英兩國總  
領事共同封印ノ下ニ引續キ同銀行ニ存置セラルヘシ

左記第三項規定ノモノヲ除キ本件現銀ハ其ノ保管ニ付日  
英兩國政府カ別途協定ニ達スルニ至ル迄之ヲ封印シ置ク  
モノトス本件現銀ハ在天津日英兩國總領事ノ面前ニ於テ  
封印セラルヘシ

右ノ如ク現銀ヲ封印スルニ先チ英貨十萬磅ノ額ニ相當ス  
ル量ヲ分離シ之ヲ北支ノ或ル地域ニ於ケル水害竝ニ他ノ  
地域ニ於ケル旱害ヨリ直接生シタル饑饉狀態ノ救済ノ基  
金ニ充ツルモノトス

右救済ハ水害地域ヨリ排水シ疫病ノ危險ヲ減少セシムル  
爲外國ヨリ至急購入ノ要アル機械ノ供給ヲモ含ムモノト  
ス

關係英國官憲ハ前記ノ如ク分離セラレタル現銀ヲ救済用途ニ充テ之ヲ賣却シ且救済ニ必要ナル食料品其ノ他ノ物資ノ購入ニ使用シ得ル様一切ノ出來得ル限りノ便宜ヲ供與スルノ用意ヲ有ス

在天津日英兩國總領事ハ専門家ヲ任命シ右専門家ハ兩國總領事監督ノ下ニ本件基金ノ管理ニ付兩國總領事ヲ輔佐シ且救済ニ必要ナル食料品其ノ他ノ物資ノ分配ニ關シ現存ノ在北京救済委員會ニ助言ヲ與フルモノトス日英兩國専門家ノ外更ニ支那人佛國人専門家及其ノ他ノ國籍ヲ有スル専門家一名ヲ招請シ本件事業ヲ輔佐セシムルモノトス

### 三、通貨

英國租界工部局參事會ハ英國租界内ニ於ケル中國聯合準備銀行券ノ使用ニ對シ何等障害ヲ爲ササルヘシ英國租界工部局參事會ハ一九三九年前ニ設立セラレサリシ一切ノ兩替店ノ營業許可證ヲ撤回スルニ決定セリ今後營業許可證ハ支那銀行公會ノ保證アリ且適當ナル資本ヲ有スルモノニ非サレハ新ニ之ヲ發給セサルヘシ營業許可證ハ毎月之ヲ更新スルモノトス

上記措置ノ適用ニ關聯シ生スルコトアルヘキ諸問題ハ日英兩國總領事間ニ現地ニ於テ論議セラルルモノトス

1667  
昭和15年6月20日

#### 天津英仏租界問題の解決に関する情報部長談話

天津英佛租界問題解決に際する情報部長談

(昭和十五年六月二十日)

天津英國租界問題に付ては昨年七月有田外務大臣クレイギ―英國大使間の原則的瞭解が成立して以來幾多の迂餘曲折ある交渉を重ねたる上最近日英間に意見の合致を見たので昨十九日有田外務大臣クレイギ―英國大使との間に右意見の合致を確認する手續を了するに至つた且アンリ佛國大使との話合の結果同日佛國側との間にも日英間と同様な原則的瞭解の成立と共に治安、現銀及通貨の諸問題に付意見の一致を見るに至つたのである。

今般成立した了解の結果天津英佛租界治安維持の爲租界當局が我が官憲と十分協力することに依り租界が抗日分子と策動に濫用されることは殆ど絶つに至るものと確信す

る又銀及通貨の兩問題解決の結果未だ十分とは言へぬか北支難民の救済か行はるのみならず天津地方の經濟的安定にも寄與し得ることとなつたのである。

現下の事態に於て天津租界問題の解決は當然爲さるべきものか爲されたとの感を與ふるに過ぎぬか、此の問題あるか爲に、より廣汎な且より緊切なる問題の解決が阻まれて居つたことは見逃してはならない、日本か東亞に關する國民的要望を達成せんか爲英佛の同調を求むべき問題は多々あるのであるか天津問題解決に示された英佛の意嚮か他の諸問題に付てもより強く反映せられんことを期待するものである。

1668 昭和15年 6月20日 在天津武藤總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

天津英仏租界の封鎖解除につき報告

天津 6月20日後発  
本省 6月20日夜着

第三四六號

天津防衛司令官ハ二十日午後六時以後英、佛租界ニ對スル

交通制限ヲ解除スル旨ノ布告ヲ發シ同日同時刻全檢問所竝ニ水上ニ於ケル檢問檢索ヲ終止シテ右交通制限ヲ解除セリ  
解除ト共ニ租界ノ内外ヨリ數萬ノ人民陸續トシテ通行ヲ開始セリ

尙軍ニ於テハ今後約一週間從來ノ檢問所ニ於テ租界出入ノ交通量調査ノ爲若干ノ兵ヲ殘置スル趣ナリ(此ノ點當地英佛總領事ニ連絡濟)

北大、南大、在支各總領事及香港、山海關、塘沽、唐山へ轉電セリ  
英、佛へ轉電アリタシ

1669 昭和15年 6月20日 有田外務大臣より  
在北京藤井大使館參事官宛(電報)

興亜院華北連絡部が進めている天津租界内における金融機關の検査および法幣の流通禁止措置に中央は絶対反対の方針について

本省 6月20日後9時20分発

第四二三號(極秘)

十八日華北連絡部ヨリ天津租界内金融機關ノ検査竝ニ舊法



幣ノ絶對的流通禁止ヲ歐洲情勢急轉ノ此際斷行スルコトトシ諸般ノ準備ヲ進メツツアル旨興亞院ニ電報シ來リタル趣ニテ十九日興亞院主任者會議ノ際本件論議セラレタル處天津租界問題解決ノ直後斯ノ如キ措置ニ出ルコトハ絶對反對ニシテ大体各省共同様ノ意見ナリシカ尙充分檢討ノ上改メテ審議セラルルコトトナレリ尙興亞院ニ於テハ華北連絡部ニ對シ同部力意圖シ居ル處ノ具體的内容ヲ更ニ電報方求ムル趣ナリ

天津へ轉電セリ

1670

昭和15年6月21日

在天津武藤總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

### 天津英仏租界の封鎖解除に関する英字紙論調報告

天津 6月21日後発

本省 6月21日夜着

第三四七號

二十一日 Peking and Tientsin Times 及「ノースチャイナスター」ハ夫々全面及一面ノ大半ヲ割キテ檢問解除ニ關スル軍布告、聲明竝ニ日英當局發表共同公表文及本官ノ居留

民ニ對スル告諭等全文ヲ掲載スルト共ニ各檢問所開放利那ノ感激的光景竝ニ當夜英佛租界ニ於ケル夥シキ人出ノ狀況等ヲ報道セル外「カー」大使ヨリ英國居留民ニ宛テタル隔絶中ノ勞苦ヲ撈フ「メツセージ」ヲ掲ケタリ尙同日 Peking and Tientsin Times ノ論說大要左ノ通り

天津事變ニ關スル「コンミュニケ」竝ニ日本軍聲明ノ發表ト共ニ英租界ニ對スル交通、物資ノ搬入ニ關スル一切ノ制限力撤去セラレ長期ニ亘レル紛糾ノ解決セルハ満足ニ堪ヘス

治安問題ハ夙ニ解決スヘカリシモノニテ實際ニ於テハ英國警察ハ全般協定ノ趣旨ニ從ヒ活動シ來レリ日本憲兵ノ駐屯ニ對シテハ疑念ヲ有スル論者ハ或ハ不必要ヲ唱ヘシモ駐屯ノ目的ハ協力ニ在リ且英租界ノ行政權ヲ侵害セサルコトトナリ居レリ又銀問題ニ付テハ一部分力難民救済ニ使用セラルルハ喜フヘシ

聯銀券ハ英佛兩租界ニ於テ法幣ト併用セラルルコトトナルヘキ處英租界當局ハ其ノ管轄内ニ於テノミ取締ヲ行フモノナルヲ以テ租界外ニ法幣ヲ搬出スルモノハ自己ノ危險ヲ以テ之ヲ爲スモノナリ又英租界ヲ法幣搬出入ノ根據地ト爲ス

ヲ得サルモノニシテ英租界當局ハ之ヲ保護セサルモノナリ  
日本軍ノ聲明ニ依レハ尙今後ノ狀況注視シ必要アルニ於テ  
ハ隔絶ヲ再開スルコトアルヘキ旨留保シ居ル處右ハ豫テ漢  
字新聞ノ論調ニ於テ隔絶ハ北支全體ノ治安ノ問題ニシテ且  
租界ノ存在ハ新支那竝ニ新建設ノ障礙物ナルヲ以テ之カ回  
收ヲ主張シ居タルニ鑑ミ敢テ驚クニ當ラサルモノ新協定ハ治  
安ノ維持ニ付テハ廣範圍ノ權限ヲ認メ居ルヲ以テ右樣議論  
ノ種ハ解消スルモノト信セラル云々  
北大、南大、上海、青島へ轉電セリ

1671

昭和15年 6月29日

阿部中国派遣大使より  
有田外務大臣宛(電報)

重慶より歸滬したカー大使との天津租界問題  
などに関する意見交換について

南京 6月29日夜発  
本省 6月29日夜着

第二一二號

重慶ヨリ歸滬セル英國大使カ二十五日往訪ノ日高參事官ニ  
爲セル談話要點左ノ通り

一、天津租界ニ關スル日英取極ニ付テハ支那側ヲ承知セシム  
ルニ骨折レ結局蔣介石自身ヲ説キ付ケ我ノ力ニ依リ漸ク  
決定ヲ見タル次第ナルカ十萬磅以上ノ現銀ノ使用ニ付テ  
ハ強キ反對アリ此ノ上日本側ニ於テ本件ヲ持出サレサル  
様希望ス

二、重慶政府ノ現狀ニ付テハ(イ)蔣ヲ中心トスル重慶政府ノ結  
束ハ相當固ク蔣ハ依然トシテ各方面ニ睨ヲ利カシ(ロ)國共  
ノ軋轢モ傳ヘラルル程烈シカラス(ハ)蔣ハ要スレハ共產黨  
ヲ抑フル力アリトテ(A)日本ハ戰爭ノ相手タル蔣ヲ和平ノ  
相手トセス實力ナク奸漢視セラルル汪一派ヲ相手トシテ  
全面的和平ヲ圖ラントスルハ百年戰爭ニ外ナラス(B)重慶  
空爆ノ如キモ徒ニ市民ヲ苦シメ其ノ抗戰氣分ヲ煽リ結束  
ヲ強ムルノミニテ軍政要人ニ危害ヲ與ヘ其ノ士氣ヲ挫ク  
目的ニ反スル效果ヲ生ス(C)佛印「ルート」閉鎖ノ如キモ  
現在相當ノ援助ヲ與ヘツツアル蘇聯側ニ蔣ヲ走ラシムル  
結果トナルニ過キストテ相變ラスノ言説ヲ繰返シ頻リニ  
對蔣直接交渉ヲ説キタルニ付日高ヨリ一々實例ヲ舉ケ之  
ヲ反駁シ置キタルカ英大使ハ日本側力汪ニ寛大ナル條件  
ヲ許サハ重慶陣營ニ相當ノ動搖ヲ與フルコトヲ認メ日本

ハ何時汪ヲ承認スヘキヤト氣ニ掛ケツツモ日本側ハ一向  
汪政權ニ花ヲ持タセル遣方ヲ爲シ居ラサルニアラスヤト  
反問シタリ

以上英大使ノ考方何等參考迄

尙同大使ハ歐洲ノ形勢ニ顧ミ當分上海ニ滞在スヘク重慶ニ  
ハ參事官ヲ留メ置ク心算ナル由

興亞院ニ轉報アリタシ

北京、在支各總領事ヘ轉電セリ



1672

昭和15年 8月15日

松岡外務大臣より  
在本邦クレイギー英國大使宛(半公信)

華北での反英運動に関する英国側申入れへの

わが方回答

拜啓陳者本大臣ハ八月十二日附閣下ノ本大臣宛書翰ヲ閱悉  
致候處當方ニ於テハ間モ無ク北京ニ於テ反英運動カ再ヒ行  
ハレントシツツアル旨ノ何等ノ情報ヲ有セス閣下カ前記書  
翰中ニ於テ「相當信頼スヘキ」モノトシテ引用セラレタル  
情報ノ根據ニ付疑ヒ無キ能ハサル次第第二候ヘ共閣下御申出  
ノ次第ハ現地官憲ニ轉達致置候

尙閣下ハ有田前外務大臣ノ六月十九日附口上書ニ言及セラ  
レタル處右口上書ヲ俟ツ迄モナク我方トシテハ排外運動ノ  
取締ニハ常ニ自主的ニ努力スルモノナルモ右口上書自身ハ  
客年七月ノ原則的諒解ニ豫見セラレ居ル英國側ノ對日態度  
ヲ不可分ノ前提トスルモノニシテ爾後英國力如何ナル對日  
政策ヲ採用スル場合ニ於テモ常ニ我方ニ於テ既定方針ニ基  
キ民衆ノ反英運動ヲ禁壓スル意嚮ナル旨ヲ言明セルモノト  
解釋スヘカラサルコトヲ茲ニ附言スルヲ適當ト思考致候

敬具

昭和十五年八月十五日

外務大臣 松岡 洋右

大不列顛國特命全權大使

「サー・ロバート・クレイギー」閣下



1673

昭和15年 9月5日

在天津武藤總領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

仏印への日本軍の行動開始に呼応して天津に  
おいても仏租界回収など何らかの措置を実施  
すべく現地軍が研究中の旨報告

天津 9月5日後発  
本省 9月5日夜着

第四九五號(極祕、館長符號扱)

四日香港發路透電ハ日本軍ノ佛印上陸ヲ繞ル事態ノ急迫ヲ傳ヘ居ル處當地軍側ニテハ佛印ニ對シ我軍ノ行動開始セラ  
ルルコトトナラハ天津佛租界ニ對シテモ之ヲ我方ノ管理ニ移ス等何等カノ行動ニ出ツル必要起ルヘシトテ目下研究中ノ趣ナルカ軍トシテハ本問題ハ上海及漢口ノ佛租界トモ關聯アリ且中央ノ方針モ未タ承知シ居ラサルニ付充分慎重ヲ期シ居ル旨本官内密ノ含迄ニ聯絡アリタリ佛印問題ノ緊張竝ニ本件ニ關スル政府ノ御方針等承リ置クヘキ事項御回電ヲ請フ

北大、上海、漢口、廣東、南京(外信)ヘ轉電セリ

1674 昭和15年9月7日 松岡外務大臣より  
在天津武藤總領事宛(電報)

仏印問題に關連して天津仏租界回收などの措置は考慮していない旨通報

本省 9月7日後6時0分発

第三〇八號(極祕、館長符號扱)  
貴電第四九五號ニ關シ

佛印問題ハ種々曲折アリタルモ日佛間ニ圓滿ニ合意成立シタル次第ニシテ從テ差當リ在支佛租界回收ノ如キコトハ考慮シ居ラス貴官御含迄  
北京(大)、上海、漢口、廣東、南京(總)ヘ轉電セリ

1675 昭和15年9月24日 松岡外務大臣より  
在天津武藤總領事宛(電報)

天津仏租界内の現銀売却および物資購入につき大至急措置方訓令

本省 9月24日後8時30分発

第三二四號

貴電第五三一號ニ關シ

特殊ノ事情ニ依リ二、三日中ニモ銀ノ賣却及物資ノ購入ヲ確約シ置クコト必要ナリト認ムルニ付佛國側ノ回答ナキニ於テハ佛國側ニ依ラサル方法ニテ即刻措置アリ度  
北京ヘ轉電セリ

1676

昭和15年9月26日  
松岡外務大臣より  
在天津武藤総領事宛(電報)

天津仏租界内の現銀処分引受けに関し英国側

確約を大至急取付け方訓令

本省 9月26日後7時0分発

第三三〇號(至急)

往電第三二四號ニ關シ

同電ニ所謂特殊ノ理由トハ往電合第二一五八號ニ依リ御察  
シノ通りナルニ付今明日中ニモ英國側ニ對シ本件銀ノ處分  
引受ヲ原則的ニ確約セシメ置カルコト可然  
北京(大)ニ轉電セリ

1677

昭和15年10月9日  
在天津武藤総領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

天津英租界当局が一切の納入金を中国連合準  
備銀行券のみに限定したため同銀行券の価値  
高騰について

天津 10月9日後発  
本省 10月9日後着

第五六一號

日英天津協定ニ依リ所謂通貨問題及現銀問題解決シテ以來  
内外ノ諸情勢ハ益々聯銀券ニ有利ニ展開シ聯銀券ハ舊法幣  
ニ對シ高値ヲ保持シアリシ處往電第五四一號報告ノ通り英  
租界工部局ニ於テハ十月一日ヨリ一切ノ勘定納付ハ聯銀券  
ノミヲ使用(舊法幣ノ納入ヲ拒絶)スルコトナリタル爲英  
租界ニ於ケル聯銀券買賣舊法幣賣活潑トナリ聯銀券價值昂騰  
ニ一段ノ拍車ヲ掛クルコトナリ聯銀券對舊法幣打歩ハ左  
ノ通り逐日増大シ八日ニハ遂ニ二割ノ大幅ヲ生スルニ至レ  
リ

聯銀券一、〇〇〇圓ニ對スル舊法幣打歩

九月三十日 一一八元

十月 一日 一七〇元

同シク八日 一九八元

北京、南京(大)、上海へ轉電セリ